

令和 3 年度

自己点検・自己評価報告書(学校関係者評価)

- 1 日 時 第1回 学校関係者評価委員会 令和3年7月27日(火) 午後5時
第2回 学校関係者評価委員会 令和4年2月2日(水) 午後4時
- 2 会 場 静岡県東部総合美容専門学校 応接室
- 3 委 員 令和3年度学校関係者評価委員名簿

令和3年度学校関係者評価委員名簿

	委 員	氏 名	所 属
1	元公立高等学校長	高田 道雄	
2	地域住民	鳥居 正浩	公立中学校 学校支援地域本部コーディネーター 警備会社 勤務
3	地域住民	永倉 えり子	キャリアコンサルタント フリーランス
4	卒業生	峯 知美	沼津市 写真館 勤務・美容師
5	保護者	藤谷 まゆみ	公立学校 支援員
	(本校職員)		
	校長	安藤 宏通	
	教務	白石 美和子	
	(事務長)	(監物 明)	

令和3年度 学校自己点検・自己評価委員名簿

1	校長	安藤 宏通	本校職員
2	事務長	監物 明	〃
3	教務	白石 美和子	〃
4	評価研修修了者	板垣 典明	〃

資料について

- 1 表紙
- 2 令和3年度 学校自己点検・自己評価 (学校関係者評価を含む) p.1
- 3 令和3年度 学生アンケート集計結果 p.2
- 4 令和3年度 学校自己評価シート (簡易版) p.3-p.13

静岡県東部総合美容専門学校

令和3年度 学校自己点検・自己評価（学校関係者評価を含む）

静岡県東部総合美容専門学校

1 学校自己点検・自己評価委員

校長 安藤宏通、事務長 監物明、教務 白石美和子、評価研修修了者 板垣典明

2 経緯

- (1) 第1回自己点検・自己評価委員会 令和3年7月1日13:30～
(校長・教務・板垣)
評価項目の検討
- (2) 第2回自己点検・自己評価委員会 令和3年7月14日10:00～
(校長・事務長・教務・板垣)
エビデンスの確認
- (3) 第1回学校関係者評価委員会 令和3年7月27日（火）17時から
(関係者評価委員・校長・教務)
昨年度の関係者評価結果
本年度の関係者評価委員会の進め方
評価項目について
- (4) 第3回自己点検・自己評価委員会 令和3年 8月 各自作業
エビデンスの準備
学生アンケートの内容検討
授業評価について
- (5) 第4回自己点検・自己評価委員会 令和3年12月 各自作業
自己評価シートの作成
- (6) 学生アンケート実施 令和3年12月17日基準日
- (7) 職員自己評価実施 令和4年 1月14日基準日
- (8) 第5回自己点検・自己評価委員会 令和4年 1月12日
(校長・板垣)
- (9) 第2回学校関係者評価委員会 令和4年 2月 3日（木）17時から
(関係者評価委員・校長・教務)
自己評価結果の検討
- (10) 第6回自己点検・自己評価委員会 令和4年 2月10日（木）
関係者評価の記録の確認（書面による確認）
- (11) 第6回理事会で設置者への報告 令和4年 2月14日14:00～
関係者評価のまとめを報告

令和3年度 学校自己評価シート(簡易版)

*職員自己評価欄 評価 4・3・2・1 十分な成果があった時「4」、乏しい結果となった時は、「1」を記入する

(1)教育理念・目標

大項目		評価項目	中項目	総合評価 4～1	自己評価とエビデンス 評価集計	
(1)教育理念・目標	1-01	理念・目的・育成人材像は定められているか		3.7	職員自己評価の平均	3.3
(1)教育理念・目標	1-02	学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか		4.0	エビデンスの評価	4.0
(1)教育理念・目標	1-03	教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか		3.6	職員自己評価の平均	3.3
(1)教育理念・目標	1-04	学校における職業教育の特色は明確になっているか		4.0	エビデンスの評価	4.0
(1)教育理念・目標	1-05	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか		4.0	エビデンスの評価	4.0
自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ	職員と学生（学生アンケート）の目標に対する意識は高い。各自が自分の職務の中で、如何に目標に近づくかを考えながら、仕事をしていることがわかった。そのため教育目標を始め大切な目標が浸透している。次年度の努力点とすると、「整理・整頓・清潔」の生活目標に対する指導法について模索している様子が分かったので、担当部署を決め職員全体で取り組む必要がある。					

(1) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・生活目標の「笑顔で挨拶、ありがとう」「整理・整頓・清潔」について、学生の評価と職員の意識が高く、これからサービス業を目指す教育環境としては良好である。
- ・学校評価が、年々向上し、楽しみである。エビデンスが、これだけしっかりしているので、実際の教育活動が見えてくる。この学校評価により、学校の良い点と改善点のはっきりするので、続けてほしい。
- ・学生アンケートの結果を見ると、年々向上している姿が見られる。職員の努力が素晴らしい。特に、H28年と比べると格段の差である。「入学して良かった」の項目は、現在でも高いが、90%を目指したい。

(2) 学校運営

ガイドライン

		評価項目	総合評価	自己評価とエビデンス	
大項目	整理番号	中項目	4~1	評価集計	
(2) 学校運営	2-01	専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか	3.7	職員自己評価の平均	3.3
				エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-02	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.5	職員自己評価の平均	3.2
				エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-03	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	3.6	職員自己評価の平均	3.3
				エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-04	目標等に沿った事業計画が策定されているか	3.5	職員自己評価の平均	3.2
				エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-05	教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか	3.0	エビデンスの評価	3.0
(2) 学校運営	2-06	人事、給与に関する制度は整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-07	専任教員は適正に配置されているか(時数や免許等は妥当であるか)	4.0	エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-08	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	3.0	エビデンスの評価	3.0
(2) 学校運営	2-09	業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組みができていないか(苦情及び要請への対応を含む)	3.0	エビデンスの評価	3.0
(2) 学校運営	2-10	教育活動の情報公開が適切にされているか	3.8	職員自己評価の平均	3.4
				エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.6	職員自己評価の平均	3.3
				エビデンスの評価	4.0
(2) 学校運営	2-12	教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか。	3.0	エビデンスの評価	3.0
(2) 学校運営	2-13	学生・保護者・他の利害関係者からの要望苦情等への対応や対処に対する指導や共通理解	3.2	職員自己評価の平均	3.3
				エビデンスの評価	3.0
(2) 学校運営	2-14	学生及び保護者等が不満を抱いている場合や、学校側と意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか。	3.0	エビデンスの評価	3.0
自己評価委員会による職員「努力点と改善点」のまとめ	コロナ対応を始め、職員が共通理解をすることを心がけ、打合せ、起案、研修等で情報共有を心がけた。また、国試やコンテストの対応を、皆で協力し合いながら進めた。今後は、ファイリングシステム、個別の指導方法の研修、生徒指導の見直しなどに努めたい。特に、文書管理と共有フォルダーの利用方法を整理し、ファイリングの考え方で情報管理をしていきたい。				

(2) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・情報の共有化は業務の効率化と仕事の質向上を生む。引き続き共有化に努めてほしい。
- ・先生方が、情報を共有しようとファイルにまとめ、皆で閲覧できるようにしている。このことが学校として更に向上していく上で大切なことである。

(3)教育活動

大項目	整理番号	評価項目 中項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
			4~1		
(3)教育活動	3-01	教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.7	職員自己評価の平均	3.2
				エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-02	学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-03	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	3.6	職員自己評価の平均	3.1
				エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-04	34教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3.5	職員自己評価の平均	3.2
				エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-05	少なくとも年1回、カリキュラム、学習教材及びアセスメント教材の見直しを行っているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-06	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-07	講義及び実習に関するシラバスは作成されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-08	シラバスには到達目標が記載されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-09	関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価方法などが事前に決められているか	3.3	職員自己評価の平均	2.8
				エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-10	学習サービスの設計時に予定しているモニタリング及び評価の手順を明確にしているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-11	シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布され授業で授業で有効活用されているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-12	実技・実習が講義と連動していたり、講師と学習者の比率をカリキュラム設計時に考慮するなど、効果的学習に配慮されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-13	カリキュラムの作成・見直し等に関し、定期的に外部者の評価や意見を取り入れているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-14	職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備され、公表されているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-15	学生や保護者に対し、成績評価・単位認定の基準進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	3.6	職員自己評価の平均	3.1
				エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-16	職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-17	アセスメントの結果は、公平性、透明性及び守秘義務の原則に鑑みて、確立された権限または正当な承諾を得たもののみ閲覧可能とされているか(閲覧制限)	3.0	エビデンスの評価	3.0
(3)教育活動	3-18	カリキュラム設計及び開発の経験を有している、もしくは訓練を受けたファシリテーターなどが、カリキュラムの設計及び開発を担当しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-19	学習教材は、学習内容の実際の有用性を考慮した実践的かつ最新のものであり、社会的ニーズ、文化的ニーズ及び学習者の背景を考慮して選択されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(3)教育活動	3-20	カリキュラムを設計または見直す際に、過去に提供した類似の学習サービスに関する評価の結果を考慮しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0

自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ	個人差に応じた指導の工夫や職員研修の学生への還元、学生同士の学び合いを取り入れた細かな指導の工夫など、指導法を積極的に工夫していきたいという姿勢が多く見られた。また、1年間を計画的に指導をしているものの、更に指導効果を上げるためにシラバスの活用や教科以外の年間計画の必要性も努力点として挙げられた。
----------------------------	---

(3) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・コース別学習の事前指導で、シラバスを使用し、内容の説明とコース決定時の資料としているのはとても良い。その時点でシラバスの冊子を作ることができれば、全体の見通しができて良い。
- ・シラバスは、実務経験の有無や学習評価についても記載しているので、有用である。
- ・学生アンケートと併せてみると、先生方が安心して国家試験を受けられるよう工夫し努力している様子が分かる。こうすれば全員が合格できるという方法を見いだしてほしい。
- ・リモート授業等をしながら国家試験の勉強も行い、積極的な取組が分かる。

(4)学修成果

大項目	整理番号	評価項目 中項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
			4~1		
(4)学修成果	4-01	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-02	就職率の向上が図られているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-03	目標とする資格試験等への合格率はどうか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-04	退学率の低減が図られているか	3.0	エビデンスの評価	3.0
(4)学修成果	4-05	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	2.9	職員自己評価の平均	2.7
				エビデンスの評価	3.0
(4)学修成果	4-06	学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-07	要請があった場合には、学習者又はスポンサーに対してa)学習サービスの名称及び目的やb)指導時間数、c)達成度などの情報を含む終了証明書を提供しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-08	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.4	職員自己評価の平均	2.6
				エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-09	コースの開始前または開始時に、学習する内容に関して学習者が有するコンピテンスのレベルについて、アセスメントを行っているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(4)学修成果	4-10	コース全体を通して、及びコースの終了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
自己評価委員会による職員「努力点と改善点」のまとめ	<p>卒業生の活躍や就職状況の把握についてこれまで以上に収集し、卒業生も称揚していきたいという姿勢が職員に強いことが分かった。卒業生も大切にしていこうという校風があるので、再就職の相談に積極的にのり、美容師を続けていく手助けをしていきたいという願いが強い。卒業生へのアンケートの実施や実習講師の依頼などを通して、卒業後の様子を把握する努力をしていきたい。</p> <p>在校生については、退学率減少に向けてスクールカウンセラーの定期在校日を設定するなど手厚い対応をしているので、更に効果的な活用を探っていきたい。</p>				

(4) 学校関係者委員の意見・改善点

- ・就職率、資格取得率等のデータが揃っている。職員が多くの資格の指導をすることにより、更に専門性が高まっている。特にメイク1級を全教員が取得していることは驚きである。費用もかかるが、職員が研修をすることによって教育の質を高めるので、引き続き努力してほしい。
- ・学生アンケートで、個々の授業評価を取り入れたのは、授業改善に役立つので良い方法である。

(5) 学生支援

		評価項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
大項目	整理番号	中項目	4~1		
(5) 学生支援	5-01	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-02	学生相談に関する体制は整備されているか	3.5	職員自己評価の平均	3.2
				エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-03	保護者会・保護者面接など保護者と適切に連携しているか	3.5	職員自己評価の平均	3.0
				エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-04	社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-05	卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるか	3.0	職員自己評価の平均	3.0
				エビデンスの評価	3.0
(5) 学生支援	5-06	図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-07	奨学金など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-08	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。(健康診断)	3.7	職員自己評価の平均	3.2
				エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-09	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-10	学生の生活環境への支援体制はあるか(アパート探しなど)	4.0	エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-11	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.8	職員自己評価の平均	3.4
				エビデンスの評価	4.0
(5) 学生支援	5-12	学習に関する要望、学習に関する要望を取り巻く状況及び通学の障害となる要因(距離や費用)を理解し、解決に向けた提案を行っているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
自己評価委員会による職員「努力点と改善点」のまとめ	学生支援では、1人1人に寄り添う努力をしている様子がうかがえた。精神面や施設面など物心両面で学生支援の努力をしている様子が分かった。修学支援金も工夫して実施している。学生の健康診断は、校医のところで実施し指導を受けているが、日常の健康相談については、専門家が常駐していないため対応に課題が残る。実効性のあるシステムを模索していきたい。				

(5) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・学生への修学支援の1つとして、学校予算(国の補助も有)で「食に関する支援」を実施したことは、1人1人の学生の様子をよく理解していることがわかる。学生がその修学支援に好意的であることから、良い支援策である。
- ・高校や中学との連携の1つとして、出前授業(職業講話、就職前指導、メイク指導など多様な授業連携)をしているということだが、職業教育振興の視点からも良いことである。

(6)教育環境

大項目		評価項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
大項目	整理番号	中項目	4~1		
(6)教育環境	6-01	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(6)教育環境	6-02	カリキュラム上必要となる実習に用いる教材・機材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が整っているか	3.6	職員自己評価の平均	3.0
(6)教育環境	6-03	教員・講師に対して、学習指導のための教育訓練や教材の利用についての訓練を実施しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(6)教育環境	6-04	教職員に対して学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか	3.1	職員自己評価の平均	3.2
(6)教育環境	6-05	防災に対する体制は整備されているか	3.7	エビデンスの評価	4.0
(6)教育環境	6-06	学内外の実習施設、インターンシップ、会議研修と位について十分な教育体制を整備しているか。	4.0	職員自己評価の平均	3.2
自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ		清掃指導の指導に力を入れていることがよく分かる。生活目標「整理・整頓・清潔」の実践の場として清掃活動があり、清掃から「整理・整頓・清潔」に意識をつなげる指導ができると素晴らしい改善となる。清掃指導と日常の安全点検を同時に実施することにより、安全面への配慮という就職してからも役立つ姿勢の育成だと考える。		エビデンスの評価	4.0

(6) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・職員研修に力を入れている様子が分かる。特に2年かけてメイク研修の高い資格を教員が全員で取るということはなかなかできないことだ。是非その方向性を維持し、先生方の技術を高める場を作ってほしい。
- ・9月の防災訓練が中止になったのは、コロナの状況でできなかったと思うが、コロナが落ち着いたときに実施してほしい。ただ、避難場所の確認などはレクリエーション等と合わせて全員が現地に行ったり、シェイクアウト訓練の実施など、日常の指導の中でさりげなく取り入れていることが素晴らしい。
- ・防災用品の備蓄は全て学校が用意しているようだが、個人持ちの学校も多い。個人持ちのものと学校でそろえるものと分けると充実するのではないか。

(7) 学生の受入れ募集

大項目	整理番号	評価項目 中項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
			4~1		
(7) 学生の受入れ募集	7-01	学生募集活動は、適正に行われているか	3.6	職員自己評価の平均	3.1
(7) 学生の受入れ募集	7-02	履歴書を適切に入手し、適切な管理を行っているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-03	学校案内等には選抜方法など、入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの前提となる要件が明示されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-04	学校案内等に学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-05	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.7	職員自己評価の平均	3.2
(7) 学生の受入れ募集	7-06	学力の不足や障害に関する特別なニーズを特定しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-07	教育の履行、人的物的資源の提供、個人情報の取扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-08	学納金は妥当なものとなっているか	3.6	エビデンスの評価	3.1
(7) 学生の受入れ募集	7-09	学校運営責任者の情報や、教員・講師の適格性・経験などの情報を提供しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-10	学習者の満足度に関するフィードバックを入手する手順、並びに彼らの要求、提案及び苦情に対応する手順など、学校生活での支援体制について入学前に伝えているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-11	教授資格、教歴及び背景など、学習サービスを担当するファシリテーターのプロフィールについて、オープンキャンパスなどで紹介しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-12	学習サービスの請求書は、明確且つ学習者が何の代金を請求されているのか理解できるよう必要な全ての詳細を含んでいるか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(7) 学生の受入れ募集	7-13	学習者又はスポンサーから要請があった場合には、支払いの証明を提供しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ	本校の教育について、高校生を中心に周知されるよう工夫・努力していることが伺える。体験入学や体験授業で使える内容については、職員研修等で全員が身に付けているため、派遣の幅が広がった。同時に全職員が魅力の発信ができるよう、身に付けていく必要がある。				

(7) 学校関係者評価委員の意見・改善点

・授業料が全国平均に比べて安いという話があったが、教育の質向上とあわせて慎重に考えてることが大切である。

(8)財務				
大項目	整理番号	評価項目 中項目	総合評価 4~1	自己評価とエビデンス 評価集計
(8)財務	8-01	財務について会計監査が適正に行われているか	3.9	職員自己評価の平均 3.8 エビデンスの評価 4.0
(8)財務	8-02	財務情報公開の体制整備はできているか	3.9	職員自己評価の平均 3.7 エビデンスの評価 4.0
(8)財務	8-03	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	職員自己評価の平均 2.5 エビデンスの評価 3.0
(8)財務	8-04	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.8	職員自己評価の平均 3.3 エビデンスの評価 4.0
自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ	職員が少しでも無駄を省こうとしている姿勢が見られるが、学生の意識の向上が課題である。環境省のゼロカーボンアクション30やSDGsなどの取組をしながら、意識を高めることを考えていくのも1つの方法であろう。			

(8) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・財務関係の評価が上がっている。職員の努力の賜である。
- ・中長期的に学校の財務基盤はどうかという問に対して、他の項目に比べて数値が低い。「今後の見通し」を中心に考える職員と「今までの状況」を中心に考える職員の差であるということだが、安定した基盤にあると考えたい。

(9)法令等の遵守

大項目	整理番号	評価項目 中項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
			4~1		
(9)法令等の遵守	9-01	学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(9)法令等の遵守	9-02	教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習状況等）を確認・検証しているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0
(9)法令等の遵守	9-03	専門分野における先端的な知識・技能を修得するための研修や教員。講師の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(9)法令等の遵守	9-04	職業関連分野やおける業界等との連携において優れた教員の提供先を確保するなどの取組が行われているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(9)法令等の遵守	9-05	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.8	職員自己評価の平均 エビデンスの評価	3.0 4.0
(9)法令等の遵守	9-06	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか	3.8	職員自己評価の平均 エビデンスの評価	3.3 4.0
(9)法令等の遵守	9-07	アセスメント結果のレビュー等が適切に行えるよう、文書管理規定や文書管理リストが整備されているか	4.0	エビデンスの評価	4.0
(9)法令等の遵守	9-08	自己評価結果を公表しているか	3.9	職員自己評価の平均 エビデンスの評価	3.4 4.0
(9)法令等の遵守	9-09	教員・講師は経験を有し、日本国内において認知されている教授資格を持っている。又認知されている講師養成訓練を受けているか。	4.0	エビデンスの評価	4.0

自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ
職員全体のコンプライアンス遵守の意識が高い。引き続き高めていきたい。自己評価委員会が機能し始めたため、外部評価を取り入れていく必要性も高まっている。

(9) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・学生アンケートで授業全般についてのアンケートを採り、更に非公開で個々の授業のアンケートも行ったことは評価できる。継続してほしい。
- ・労務調査の結果が良かったということだが、引き続きその姿勢で経営を進めてほしい。
- ・今回の自己評価は、ISOを意識しており、国際基準を念頭にした評価で素晴らしい改善である。

(10)社会貢献・地域貢献

大項目	整理番号	評価項目 中項目	総合評価	自己評価とエビデンス 評価集計	
			4~1		
(10)社会貢献・地域貢献	10-01	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.9	職員自己評価の平均	2.9
				エビデンスの評価	3.0
(10)社会貢献・地域貢献	10-02	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.6	職員自己評価の平均	3.0
				エビデンスの評価	4.0
(10)社会貢献・地域貢献	10-03	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3.5	職員自己評価の平均	2.8
				エビデンスの評価	4.0
自己評価委員会による職員の「努力点と改善点」のまとめ	イベントの中止で地域貢献のボランティアが実施できないのは仕方がないが、ボランティアに対する学生の意識を高めていきたい。更に積極的な社会貢献活動を考えているのではないか。				

(10) 学校関係者評価委員の意見・改善点

- ・職員の前向きな姿勢が感じられる。この学校の良さである。コロナ禍においては知恵を出し合い工夫してほしい。
- ・地域イベントはできななくて残念だったが、他のボランティア活動は積極的取り組んでいることから学校に活力を感じる。

◎学校関係者評価を受けて

学校関係者評価の結果、まとめると次のようなことである。本年度は、職員による自己評価とエビデンスを取り入れた学校評価ができあがった。学校自己評価委員会が機能していることがわかった。年々良いものになり楽しみである。エビデンスをまとめたファイルなどきちんと整理されていて驚いた。ファイルに入らなかった資料は、所在カードを作成し、保管場所が直ぐに分かるようになっている。学校評価をこのように扱うと教育活動の力の入っているものと弱点がはっきりする。それを活かすことにより、まさにPDCAサイクルを活かした学校改善となる。継続して実施することにより、本校の教育活動が更に良くなっていくことが期待できる。引き続き今年のような学校評価を実施し、学校改善を進めてほしい。

関係者評価の結果は良好であった。来年度は、項目を見直し自己評価の項目を完成させたい。そのことによって質の高い教育活動を作っていきたい。本校の理念である「学生の幸福を追求し、挑戦する心を育てる」ことを念頭に、質の高い教育活動が進められるよう努力していきたい。